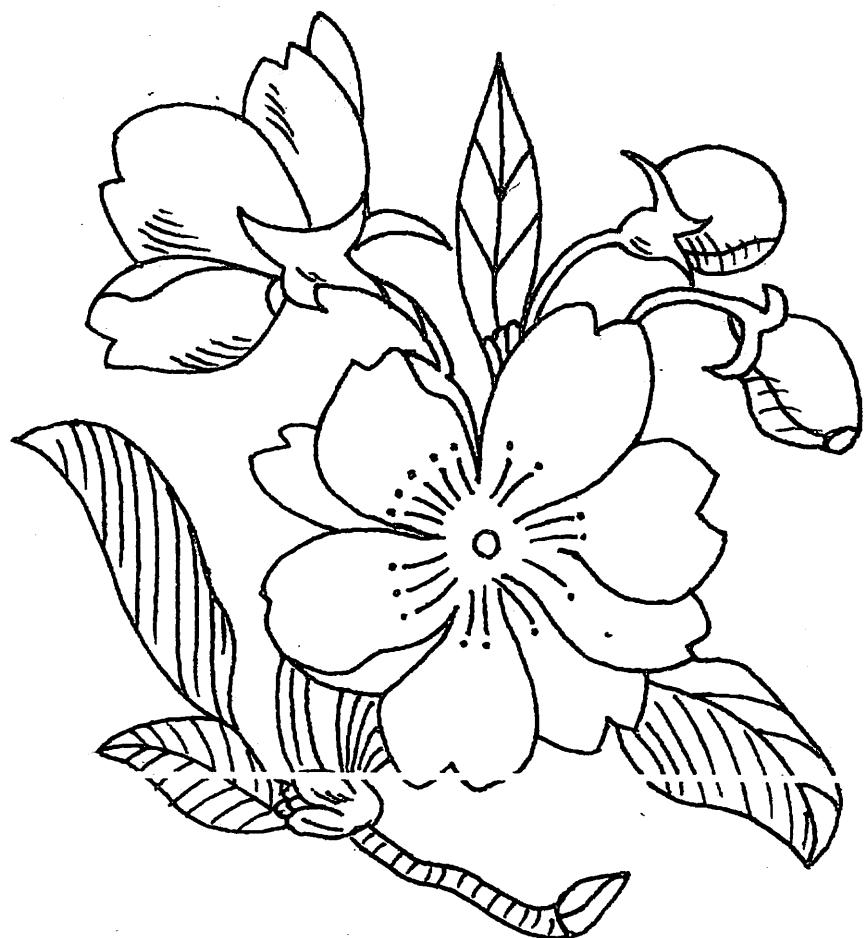


'93新人合宿報告書



信州大学山岳会



リーダーの言葉

1年生は自分の体力と精神力がどの程度のものか新人合宿を経験して把握できた事と思う。自分の弱いところをそのままにしないで克服していくよう。そして、「山に連れてってもらう」ではなく、「自分で山に登れる力を早く身につけるんだ」という気持ちでいてもらいたい。そのための協力は約束しよう。

2年生は一人一人がもっと自覚を持つこと。

伴野達也

~~~ 目次 ~~~

P1. リーダーの言葉 , 目次

P2 ~4 行動記録

P5 会計報告 , 装備反省

P6 ESSENの反省と報告

P6 ~16 新人合宿の反省と感想

P17 ~23 一年生の作文

新人合宿 行動記録

5/30 徳本峠を越えて白沢出合へ

A 11°-テイ- L 伴野, 博多, 松本, 石井, 伊藤(勇)
佐々木, 藤野, 山田

5:30 砂防ダム ○ — 8:40 岩魚留小屋 ○

— 13:25 徳本峠 ○ 14:10 — 15:40 白沢出合 T.S ○

B 11°-テイ- L 高橋, 三木, 広谷, 吉沢, 伊藤(利) 上山, 河崎
竹本, 原田, 山内, 吉田

5:30 砂防ダム ○ — 8:40 岩魚留小屋 ○

— 13:40 徳本峠 ○ 14:10 — 15:40 白沢出合 T.S ○
徳本峠からは全員で行動する

5/31 全員で横尾B.Cへ

5:40 T.S ○ — 6:40 徳沢園 ○

— 9:00 横尾B.C ○

雪訓隊 L 伴野, 博多, 広谷, 松本, 吉沢

涸沢の手前まで

10:05 B.C ○ — 11:25 ○ ~ 13:10 ① 雪訓

— 14:10 B.C ①

6/1 涸沢で雪訓

雪訓 11°-テイ-

A 11°-テイ- L 伴野, 広谷, 松本, 石井, 伊藤(利), 上山
佐々木, 原田, 山内

B 11°-テイ- L 高橋, 三木, 博多, 吉沢, 伊藤(勇)
河崎, 竹元, 藤野, 山田, 吉田

4:45 B.C ○ — 6:50 涸沢 ○

7:30 ~ 13:00 ○ 雪訓

13:10 涸沢 ○ — 14:30 B.C ○

6峰は登る予定であつたが、雪訓は時間がかかるので中止した
河崎がゼンソクになつて明日下山せざることにした。

6/2 3.4のコルから4峰へ
雪訓パーティー

Aパーティー 山伴野、博多、広谷、上山、佐々木、藤野、山内、
吉田

Bパーティー 山三木、松本、吉沢、石井、伊藤(利)、伊藤(勇)
竹元、原田

4:35 B.C ○ — 6:50 潜沢①

8:00 ~ 9:40 ○ 雪訓

11:00 3.4のコル ○ — 11:25 4峰 ○

12:10 3.4のコル ○ — 13:15 潜沢 ○ — 15:00 B.C ○

ゼンソウの河崎は高橋と上高地へ下山

山田は体調が悪く B.C 待機

大OBの長谷川エレガ B.C にのみ登場せず。

6/3 ハンテン

悪天候予想の中下山。雨は朝だけであった。

山田は不調で前日 高橋と上高地へ下山

三木は翌日の講義のために上高地へ下山。

6/4 奥又日池へ

山伴野、高橋、博多、広谷、松本、吉沢、石井、伊藤(利)
伊藤(勇)、上山、佐々木、竹元、原田、藤野、山内、吉田

4:35 B.C ○ — 9:45 奥又日池 ○ — 15:15 B.C ○

岩場は fix 25m 張、支柱。その下の斜面はも fix するべきだ。下。
OB の内田工事が B.C に来て下地。

6/5

槍ヶ岳へ

La 伴野、高橋、博多、元谷、松本、吉沢、石井、伊藤(制)
伊藤(鳥)、上山、佐々木、竹元、原田、藤野、山内、吉田
内田(OB)

4:05 B.C ○ — 7:00 大曲リ ○ — 9:00 殺生山テ
10:15 殺生山テ ○ — 14:50 B.C ○

殺生山テから上はバスが濃く視界が悪!!

見えない所から落石(落木)が多数ありそもち悪!!ので
いちばん待機した後、下ることにした。

昨日に降雪があり、たたかで新雪が30cm程度積もって下。

三木がB.C入り

OB。植垣工と元CMCの馬鹿工がB.Cに来り下土した。

6/6

上高地へ

La 伴野、高橋、三木、博多、元谷、松本、吉沢、石井、
伊藤(制)、伊藤(鳥)、上山、佐々木、竹元、原田、藤野、
山内、吉田、内田(OB)、植垣(OB)、馬鹿工。

7:55 B.C ○ — 8:45 新村橋 ○ — 木暮参リ —
10:05 徳沢園 ○ — 11:50 上高地 ○

Jun 18 02:57:29

j9183 : kaikei

会計報告

収入: $1.4 \times 19 = 26.6$ (千円)

支出: 247600円

内分け

交通費: 69910

食費: 118791

酒: 10121

装備その他: 70478 (ガス、MSR、スリング等)

残金は松本の部費となる。

まだ返却金の千円を受けとっていない人は今度会った時に請求すること。河崎、山田の分はだれかわたしてやってほしい。

会計の反省: こまめに記帳しているつもりであったが、確かな自信はない。たてかえたり、仮払いする時は記録しておかないと忘れがちである。

そろび反省

火 76本　　自 約 11本

ローケ 2-2本

ガス (エーセンのみ) 12150cc 91.3cc/泊人

・ ローケは 河原で めしを食べたのと、個装のランタンがあつたので少なくてすんだ。

・ 最終日のたき火に ガスを 3㍑使った。

・ MSRについて

・ MSRは 使う直前にポンピングをして、皿の上に火を置いてマサムを行け。火の下に水をくらべるのもよろしくない方法がよいと思う。

・ 便している途中で 火が赤くなったりしたら ポンピングをしてみるとよい。

・ ポンピングが ボトルから抜けてしまうことがあるが あめでず にまたさし込めばよい。でも気をつけてね。



ESSENの反省と報告

- ・合宿のように同じ種類のものを大量に買わなければならぬ時は、前もって注問しておかなければならぬ。今回はこれを怠ったために、買い物出しに大変時間がかかりました。またお湯のツッキーが2種類ある日が出来てしまい、多少不公平感を持たせてしまつたかもしれません。
- ・朝食のインスタントのソラ、ウドン、ラーメンには乾燥野菜を入れてみた。具が全くないよりはよっぽど良いようと思う。
- ・マカロニの味つけは1回目がマヨネーズとシュー(6四分)、2回目がマヨネーズとカレー(6四分)である。カレー味、マカロニは今まであまりなく、たしかにこう合っていたと思う(個人的にカレー味が好き)。ただし両者とも味が薄かった。
- ・夕飯の汁の具の野菜は個数計算で持つていったのですが、ニンジンが大きく、ジャガイモが大変大きめ。そのため分量比が適当でなかった。
- ・ホーリタントに入れるジュースと麦茶は前日にホーリタントを持つ人に渡しておかないと使いきこねてしまう。
- ・一回分の茶、薬の分量を考えて持つていしたもののが約2回分(一日分)である。

(末谷)

反省と感想

豪機 故

状況の判断が難しかった。流氷した日などは、戻家の読みもまるで外れたり、どうせ涸沢へ行くだけなのだから行ってから考えるなどもできた。逆に奥又へ行った日は途中で引き返さなければいけず、とにかくもと慎重に行くべきだった。それからあのとき滑落した一年生に会いたいのは、笑ってすませるなどいふこと。山での滑落は命取りだからもと真剣に受けとめてほしい。二年生に会いたいのは、二年生根性(?)を持つなどということ。二年生だからこの位の仕事をすれば良いだろとか、そのような言われたこと、決められたことをやれば良い山式の考え方をしている限り一人前とは認められない。全体をみわたせる様になってほしい。

新人合宿の反省・感想　　三木

反省： 合宿前、上級生は「無意味に」下級生をどなつたりしないことに一致していた。合宿から帰ってきてしばらくたって、「会合を入れろ」とか、「あらー、しゃかりやん」という言葉は実際に簡単に合宿に厳しさと真剣さをつけるわかる（ようならぬ）言葉であることがわかつてきた。今回の合宿に厳しさが“たり”なかつた気がするのには（全く効果がないとはいいながら）そういう言葉が少なかつたためだろう。
もし上級生が“とりあえず”その言葉を使っていれば、厳しくやつた気分になれただろう。（あくまでも、気分にならなければ）。
今、静にふりかえってみて、一年生はよくがんばっていたと思う。自分たち上級生にこそ真剣さが欠けていたと反省している。（たとえば内=食事料のあきらめとか）。

感想： 授業の関係で、途中、抜けなければならなかつた。その間、がんばっていた人達はごくろうさまです。一年ではじめて鷹本峰をこえたときはすいぶん山奥にきたものだと思つていただけれど、2年、3年になると山横尾ベースと下界の体感距離差が“2日（鷹本）、半日（上高地）、2~3時間と短くなつた。そういうもんがなに考へています。

新人合宿の感想と反省　　博多 誠

反省しなければならないことは、山ほどある。もっとも、2年としての立場を認識、理解しなければならない。もう誰にも負けたくない。ランナーのような体力をつけ、ターボも効かれて、エンジン全開で1年を引っ張つていきたい。と思う。

反省・感想 広谷 智子

も、と体力的にも、精神的にも、技術的にも余裕がないと下級生のやんじゅを見ることができない。適格な状況判断もできない。
山を楽しむことができない。
これから課題は山遊びである。

新人合宿の反省と感想

2年という立場を十分に理解し、概ね適切に行動できたのではないかと自負している。しかし客観的に見るとどうだったろう。

感想としては自分はケガもなく合宿の全行程に参画できたことがこの上ない喜びである。

ほたか

新人合宿の反省

- 2年生として新人合宿に参加して、いきなり責任がのしかかって少しとまどった。
- 昨年みんなに長く感じた新人合宿も今年はあ、という感じだった。
- 1年生はみんなかわいい。



都会で生まれ育った僕にとって今回の新人合宿はすべてが生まれて初めての体験だった。重い荷物を持って歩くのも、雪の上を滑るのも、シュラフの中で寝ることも初めてだ。すべてが新しい状況、環境の中で過ごした8日間は、自分にとってどうであつたろうか。

徳本では大バテ、エッセンではアロアロ、海水ダッシュではバテバテ、本当に足手まといだったと思う。自分の体力と知識はこんなものだったのが、ご情けなくなってしまった。バス、 MSRの扱いはゼミで理解ほつたつもりだったのに、実戦で生かすなかた御不動さん、スノーカルではもっともっとがんばれたと思う。先輩があれほど喝を飛ばしてくれたのに、自分が最強にならうな面もあつた気がする。合宿前半は、何をやつたらいいかわからずただ言つられたことをあたふたとこなし、樂い辛いを実感するひまもなく、痛くて疲れただけだった。

次、後半は樂いもたくさんあった。エッセンも身につけた。雪朝も少しだけ上手くなつたし、ちょこ余裕が出でた。今山に登つるんだという実感が湧いてきた。猿の帰りのショートはゴキゲンそのもの。キャンプファイヤーでの酒はやり切ったがうまかった。そして何よりも合宿の日程をこなしていくにしたがって、友だちとの仲がどんどん深くなつたといったことだ。

辛いこと樂いことこの交錯は合宿でもあり、もう山なんかでもあり思つたが、山から帰ってきて数日たつた今、なんとかもう一度山に再び入つてみたいくなった。次は縦走合宿であるが、それまでの、体力、知識など前回至らなかったところを補つて、少しでも多く山を樂しむ余裕をもつて挑みたい。

じゃあ、さようなら。

新人合宿の反省と感想

ぼくはこの新人合宿で体力のなさを痛感いたしました。だからこれからは、日々いいかげんな生活をあらため、自主トレによるランニングで基礎体力をつけたいと思います。

あと初日にいきなり腹痛にみまわれみんなに迷惑をかけてしまいました。だから自分の管理をきちんとしたいと思います。

ゼミで教わったブーリンなどの結び方か天賀団がうまく本当にできなかったのできちんと練習したいと思います。

93'新人合宿

伊藤勇太郎

反省感想: 出発前にセミゴヤたことを復習しておくべきだったのに何もしなかった。そのため奥又白のフィックスではプリント80字詰めでもせず先輩にやることをしました。

出発前にその地域の研究日も、こればかりかモチと思った。ルートの確認。そこにはどんなものがあるのか、地形はどうなっているのか、天候の状態はこうだ、いるのか等々。ただ先輩の言つたことを聞くだけでは先輩のうしろをく、ついで歩くだけの山行になってしまったので自分自身でも勉強しゆくようにしなければならないと思う。

6/4の奥又白では雨が少しひれてカゼをひいてしまった。熱は38度ほど上がり、次の日もちゃんと歩けたけど、喉を痛めてしまい現在もなお、こいません。ただ1日あわてただけなぜでひいていたこの先や、いいかな?ので、雨になつても平気なように着替えをもつたり、頭をめぐらさないようになり、かばのアターハーをきちんとしてみて、クスにまどないう�うしたり、山行中は水たゞめんどくさがりで、とにかく腹をすするようにしたりするように二二三万歩けた。縦走山行で1人の体調が悪くなつた皆Y=めりからずがかかるので、体調にはきをつけたい。それはさうがいの体力トレーニングをしっかりすることだと思う。

てんとうがいがいそにしてもうさす。〇〇採りは(手と手)にしましょう。でも植物の名前をおぼえづれてどんなものが食えるかわかるので参考になりました。こんなのはキノコを敵にしてた"土"。

新人合宿の反省と感想 上山祐貴子

新人合宿を終えて 一番思う事は、ちゃんと皆と
帰ってきて良かったなーという事です。

出発前から 山行中に他の人の足をひばらなか
ずく不安でした。合宿中は 遅くてもいいから とにかく
皆と目的地に着ければと思って歩いていました。

涸沢で走った時とか、前の集団から遅くとも、
誰か必ず先輩が近くについてくれたので、安心感が
あって、自分に甘えてほったところもあると思います。

合宿前から「1週間ふるに入れないとよんてえ」と友達と
言っていたけど、思ったより苦にならなかったです。

トイレも 初めは緊張したけど、今では壁がある方が
気を使ってしまう程です。 5/30~6/6までの1週間。

すごく ハードだったけど、充実していくすごく楽しい(?)
経験をしてと今だから思えます。最後に、先輩にも
同じ新入部員にも いろいろお世話(迷惑(?))かけた事
すみません、本当にありがとうございます。とにかく いろいろ
な面で、これからも頑張っていこうと思いまますので 改めて
よろしくお願ひします。

辛が、たけれども、名前だけは間違つて、
という山でいくつも見つかるが、さすがに複数。
それから、初めてカモミカと真近に見ることか
でき、この非常に鮮やかで、とても美しい。

僕は新人会宿では初日からバテマチの山の厳しさと
自分の体力のなさを知りました。山岳会の会宿はきつい
とは聞いていたけど、これ程までとは思っていませんでした。
足には水ぶくれやくつずれができて、歩くのも一苦
労でした。

生活技術も、ゼミでやった通りに覚えてないことが
多く、天気図もまとめて書けませんでした。

これからは下界でもトレーニングや天気図などの
できることをして、これから山行に向いてがんば
ろうと思います。

佐々木 稔平

一ヶに立ち、僕は景色がきれいで、あまり
思ひなかつた。写真で見下しがある。
“征服感”はあんまり下けど、“登、たんだ”と言ふ
感情が強かつたためかも知れない。
余裕が無かつたためかも知れない。
でも、今現在考えてみると、たぶんとへ
気持ちは変わらぬ“と思うことである。”

竹元

新人合宿を終えて

信州大学山岳会一年 原田裕介

自分はこの新人合宿を経てあまりにも山に対する

認識が足らなかつた様に思ひました。

自分は、山を知つていて山岳会に入つたわけではなく、信州にきて、山がいはいで何となく山に登つてみたくなつて内容が充実している山岳会に入ろうと思つて入会しました。だけじ自分が想像していた山のイメージと實際、大あくではすごくギャップを感じました。新人合宿は、自分にとってあまりにもきつかったです。だけじみんなきつひんだし思つてついていきました。次回までに、もっと体力をつけて技術を身につけて山へ一回多く気付いたといつたといふと、いいなと思います。一番きつかったのは、ラッセルで一番楽しかったのは下山する時シリコットでまつたことです。先輩におこられたことは、次回までに必ず直して実力をつけたいと思います。

新人合宿の反省と感想 藤野 梶

新人合宿で感じたのは、自分にいかに体力が無いかということだ。みんなバスについていけず迷惑をかけてしまつた。夏合宿までにランニング等をしてみんなについていけようとした。また、バスの使い方やローバーの結び方などもきちんとできようにして、素早く行動できようとした。そして前夜の立山に登った時の感動だった。あの感動を忘れないにこからも頑張りたい。

新人合宿とゆたし

ぼくは高校の時も山岳部だったので新人合宿では様々なチャレンジをうけました。とても大きな雪山やインツバイトは怖かったのですが、雪山へ向かうのには「おれだけはまだ山で走るとは思ってもみませんでした。先輩(ハイカーハイヒーロー)といなから走りだした時は(まいがいわー)と思ひました。どうえらかったけど着いた時にには不思議な快感。か体をおどしました。雪訓ではやたら股かへてとてつらかったです。モウstepやロケルstopやシリsade等これからうまくできるようになければいけないと思っています。最後にこの山行をふりかへてみると「つらかったけどやがて生き残ったなー」という感じがします。

山内 哲文

山の日記

No. _____

Date . . .

新人令宿は本当につらいけのであつたなんといつても体調をくずしてしまつたのかいたかた。さんさんめりかでかけたあけく山を降りてしまつた。ベストコンディションを保つことは大変であるということを、身にしみて感じた。でも山はやっぱりきれいだ。できることなら登ってみればよかったと今は後悔している。

おわり

‘93年度 新人合宿

今まで新人合宿の色々な噂を聞いてきはしたが、参加してみるとなると流石に勝手が違うだろうことは予想できた。

予想ができようができないが実践してみなければ真実など分かるわけもなく、実践してみると予想以上にハードだった。

なかでも特に、徳本咲越えがキスリングのためにかなりきつかった。雪訓もつらい事はつらかったが徳本咲越えほどではないだろう。

諸用のために気象ゼミと生活ゼミに参加することができなかったのがやはり後々で響いてきたのでこれは大事な反省になった。下山後の反省会で先輩が言っていた「先輩の教えてくれること、教えることはほんの一部でしかない、だからそれぐらいは完璧にして更に自分の安全のことは自分で守れるようにきちんと勉強しなければいけない。」「下界でできることには限度があるが、できる限りの努力はしなければいけない。」という言葉が身にしみた。

今回の新人合宿は冬山訓練の一つだと聞いた。今年度の冬合宿に僕は参加できるかどうかわからない。しかしここでの経験が役に立つ日はいつかあるだろうから、今回の新人合宿での成果を新人合宿だけで終わらせないように頑張っていきたい。

振り返ってみると自分で思ってた以上に色々とできた事があった。当然それらはまだまだ大きな目で見れば未熟なものでしかないだろうけれども、これから自分の可能性を広げるためにも新人合宿で得た自信と経験をこれから自分に活かしていきたい。

君が嘘はうぶうにて
君が心は知りがたし。
君をはなれて唯ひとり
月夜の海に石を投ぐ。
(佐藤春夫「少年の日」より)

理学部:吉田 政隆

P.S. T true Typeは美しい

‘93. 6. 12

16 M. Yoshida

わたしと夕飯

ぼくは新人合宿の初日からいきなり吐きそうになりました。勇太郎君に毎日食べてもらいました。この合宿に入る前は夕飯で1合食べればいい方だったのに、今では、夕飯に2合食べてしまします。僕の食量はいっさに2倍になってしましました。これがうなづきを小さくする活動に入りたいと思います。

伊藤利信

私の憧れであり目標でもある人物は植村直己です。山を知るない人でも植村直己を知らない人はいないと思います。彼が元気な山や極地で活躍していた時代はまだ珍めませんが、私が子供心にあほえいどのは、彼の死後「植村直己物語」という漫画が作られ話題になりました。この二つがしてしまった。しかし高校で山岳部に入り「青春と山は離れて」という本を読むと非常に感銘を受けました。「普通の社会人としては生きてゆけないがために人間だ」と書いて外国を旅渡す。フランスのスキーリゾートPXIIがどのどうも苦いの話を、アコンティグアを越したてど南極の人には信じられないなどたまう。アマゾン川のイカタの川下り、明太のヒラヤ遠征への参加、北極やグリーンランドの話、キリマンジャロ山やモンゴルの話、日本は奥さんをセコムまでのおじぎの話。かまくらでかまくらはまりがありません。一つ一つエピソードに感動し、該んで何年もたつことはないまだまだあります。本当にいる人間、いや違うにほんとうに書かれたよな。彼が矢張りながら、もう片の人生とやり直して端をまでの躊躇せずに次々と成功してゆく姿には感動し、好きでもたずにはいりません。けれど英雄などどうない人間と反対に親近感を感じ、自分に自信を持たせてもらいました。

ひとまず現在。アマゾン川の川下りは絶対したいたいと思います。まだ大学在学中にセマラヤに2度は行くといつのが私の内擣でもあります。とにかく山に登るために大学に入ったよ"すみません、実現不可能"と思ふり落としたと思うのでがんばっていこうと思います。

勇太郎

大学に入学してからすでに2ヶ月以上が過ぎました。
高校の時は「大学に行ったら…」といろいろ希望(夢)がありましたが、今はただ「正道でなければ…」と願うばかりです。

高校の時も寮生活で大学でも寮生活。2つの生活は表現できない程差があるけど、共通点があるとすれば食事がなんでもおいしく食べれるようになってしまったことがあります。たぶん新人合宿後体重が増えていたのは私ぐらいだろう。やせると聞いていたので増えているを見て信じられて思わず3度測り直したのであります。これから的生活で大変な事も多いと思うけどケセラセラ精神でやっていこうと思う今日この頃です。

/ 今月の山

古今東西(主に中国地方) 山で見つけ
美しいもの。

伯耆大山頂上から見たうらら江戸。(鳥取)

秋葉谷のカルスト地形。(山形)

ビニサの赤瓦。(広島)

ひるぜん三座の山、原。(岡山)

氷、山の雪の奥、靈海。(山形)

久住山から見た雲のまつり、猪岳。(大分)

八丈岩山(誰知るかどうかと思うが)

から見た瀬戸内海。(岡山)

四国剣山のヒカリエー。(愛媛)

その他いろいろある

一発芸の話

佐々木耕平

新人会宿最後の夜、いきなり一発芸大会が始まって
しまった。どうやら毎年恒例らしい。

僕は適当にごまかしたが、みんな芸があるので正直
ハッてびびった。Yは外国の歌を歌うし、Tはこまくさ
じこみのハードな奴をぶちがまし、Hはとても3分で考え
たとは思えない替え歌をあがうなはずの足をブンブン
ふり回して歌っていた。令宿中歎(か)た先輩達急に
コメティアンになつたのは驚いた。またOBのひさん
朝(は)はすさまじく圧倒されてしまった。

焼肉に行く時H先輩の車に偶然乗リこんだ僕は、
一発芸の詮題になつた時、叔父に寝たつりしたという
のはいさうまでもない。

1973年4月29日に僕は生れた。は、ヨリハ
そんなことは現在の僕には関係ない。

ペトナム戦争へことは知らないし、まわりと同じ
年頃の人があつたと言う記憶もない。

そして僕は昭和天皇と何の関係もない。
でも、こんなことを並べ立てて僕が何がむづか
しいことと言うと思つた。それは間違ひで必ず
大体世の中に外國音楽ニヤカベ色々お芝居を
引き出しあると多く人が痛むよ。

だが好きな人はどういふた性格だとか云。
そんなことをするオジサンの中には複雑になると
だけなんじゃないぢうか。世の中顺利口上んぐ
多くて困る。モ、と率に庄王ようと僕はみんなに
言ひた。だが好きと言ふ人はまだ單陋に
だが好き友だちや仲間へある。

そして結局僕が言ひたことは
ミニマ。この作文は終りと云ふことであると
あります。

△△
前後

手くの排句

No.

Date

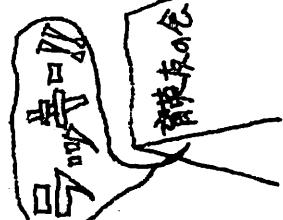
斯人會宿で一本休イケンゲ原由
「」の先輩がもうござつた時にさる
もう、いふて

聞くと体が



斯人會宿で自前に而て北殿にいた時にさる
北殿は

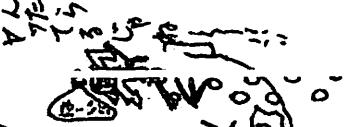
かやくかやうれし、



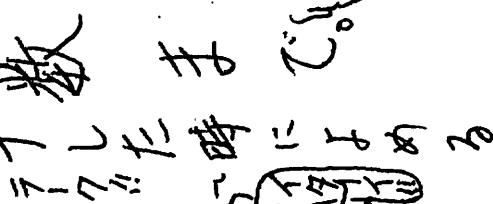
養日休休養

頭新が會宿でセルをした時にさる
ラッセルを

うんでやらがや



岩登りで採葉をアチシマ時代にさる
留年が採葉の数まで



山石の上から



落ちてくる。

作文

藤野 穏

松本に来てから早くも2ヶ月が過ぎた。

一人暮らしは初めてであるが、自炊も何

とかこなし、今と二つ生きている。

新人合宿も終り、ホッと一息という

所だが、そろそろテストの事が頭にちら

つってきた。新人合宿の前もりにう

授業をさぼったし、新人合宿の後も

あんまり学校に行ってないよう気がす

けど、気のせいかどうか、今は寝てう

時とうまいものを食べている時間が一番

幸せである。それにしても新人合宿の時

でまたくつずれが痛い。足の指もしびれて

まだ。おかげで靴がはけず、この僕も

ついにサンダルをはき始めたが、サンダルの

心地良さは言葉では言へ表せない。やつと

僕も山岳会の一員になれたようだ気がする。

これからもサンダルを愛用していく。

常念岳山行

山内招文

6/19(土) ぼくが部屋でねているとみんなに起こされた。「出発する」といわれてぼくはあれこれ歩いて山靴をはいて穂高さんの車へのりこした。元春さんの車の前のところへ二人でいたのか少し気になつた。三俣まで行く途中Seven Elevenによつた。ぼくは車から「3のかみんどう」二つ十の二、助手席ひだりとこつた。しばらくすると穂高さんが帰ってきて車をたしめて出發した。途中島みどりさんから快晴に三俣への山道を走つた。そしてぼくは3:15を过了。後部座席では上山と下山かねこいた。「あ、ねこみ」と思った。しばらくとも一度ふり向いた。そして僕は言った。「二人いかないのはまだうやけなんですか」と穂高さんは叫んだ。「え、原田か……な、い」ぼくはその瞬間全心を悟った。Seven Elevenちゃんをおいてけぼりにして2つことを。そして穂高さんかいなかえいはいって三俣についた。ペッキンぐとしてると雨がふきだ。雨具をきて。ますます雨に激しくなり。ぼくのハイペロンは雨具の役目をはたさなくなつた。うごのおたりはひづらひだつた。「ちつこの役だたすめ、ゴヤをかいたるすぐれやる」と思った。そして皆無口だつた。ぼくは腹が痛くなり野ぐとをしてしまった。体の全体がまどろく。しかしよつとビックリした。穂高さんヒュンテのテン場へついた。やつに着いたせいで喜び勇んでテントをたてたが、これからをまたへ参つた。みんなに1人で車手自ら、なぜもせうながら僕は思った。「なぜ」こんなことしてのたつて? 「山歩く何が楽しいの?」と、そして「なぜ」山に登る? と、ヒ思つた。そこで考えるのを始めた。食事かみが) 酒をのんでさあねよう。といつときにはじめんがいた(なつたので) ペットボトルは順番にして。最後の石井は用をたした時だった。「石窓認あいかど」ぼくは「石井みどり」と思いあいたンユラフにはまつてねた。次の朝雨はやんでござりがんだった。常念からは三回三段や槍や前穂や殺生ヒュンテがみえた。もう一度「きげん」だった。



学生と教授

(人文学部前広場に思う。)

御存知の皆さんも多い事だろうが、今年の3月に人文前広場が整備された。

それに対し、4月始めにどこかの団体（在松の人なら大凡の見当は付くだろう）がこれらの工事に反対し、樹木を引き抜いた。この団体は「植ええた」と称しているが、果してこの行動に参加した人の中に植樹の方法を知っている人がいたのだろうか？（いたのならそれでいいのだけれども）

何よりも気になったのはメッセージだの声明だのといいながらもこの団体は文章にその責任を負っていない点である。実にいい加減である。頭のいい連中ならばそれだけでこの文章の持つ嘘とその裏に隠された罪悪を見破るだろう。

後日ばらまかれた号外新聞なるものを見ても都合のいいようにしか書いていない。真実不在の新聞など新聞ではない！いったい仮想インタビューとは何なのか？大学当局が本当に学生の質問に対してどのように応えるのであると仮想しているのであればこの「号外新聞」を書いた人はもっと先生方と意思の疎通をはかる必要があるのではないだろうか。

人文学部の教授会での決定事項は決して秘密裏のものではない、なぜなら人文の自治会発足時に学生への情報公開がおこなわれるようになつたからである。

近頃よく耳にする「学生不在の大学当局の決定」であるが、人文学部にかぎっていえば学生不在と言ってしまうのは単に自分の不勉強をアピールしているようなものである。

かといって人文学部もとい信州大学は学生と意見を交流させながらこのプロジェクトを進めたのであろうか？その答えは「否」である。

面倒くさいとか、時間がかかるとか、色々な理由はあるだろうが大学（各学部）における最高決定機関である教授会が全てだと思っている怠慢な教官もいるかも知れない。

当然そういった考えは間違っているだろう、大学、ましてや国立大学が教員だけで成り立っているわけがない。教員、職員、院生、学生、地域住民、そして国民のどれか一つが欠けてもいけないことぐらいは分かるだろう。

同様にこの人文学部の木を引き抜いた学生は大学の決定は学生が（学生のみが）行うものだと勘違いをしてはいないだろうか？

学生の意思是大学の運営において非常に重要な位置にある、が前述の通りそれが全てでないのもまた事実である。

学生運動のよくなきタブー視される近年、目的が為にタブー視されるよりも、タブー視されることを目的とした輩が増えてきた。手段が目的化してしまっては本末転倒も甚だしい。そうなっている人にはもう一度考え方直す必要性を感じる。

そして今、我々全ての学生は大学の将来を愁い（別に愁わなくてもいいけど）大学の方向性を見つめて欲しい。

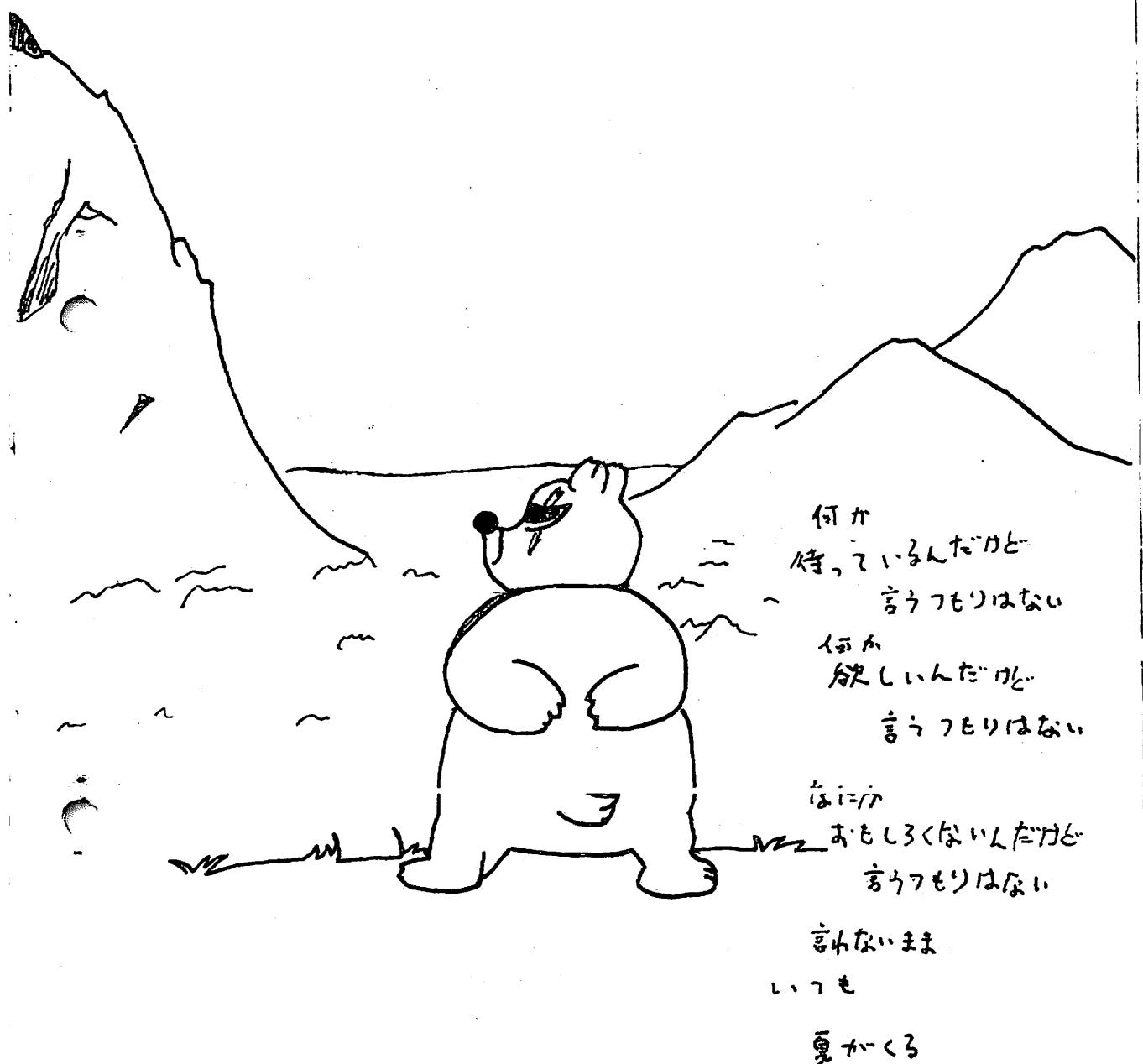
何にしろ学生不在が真に問われる昨今に今回の人文前広場の騒動は考え方直す良い機会を与えてくれたと思う。

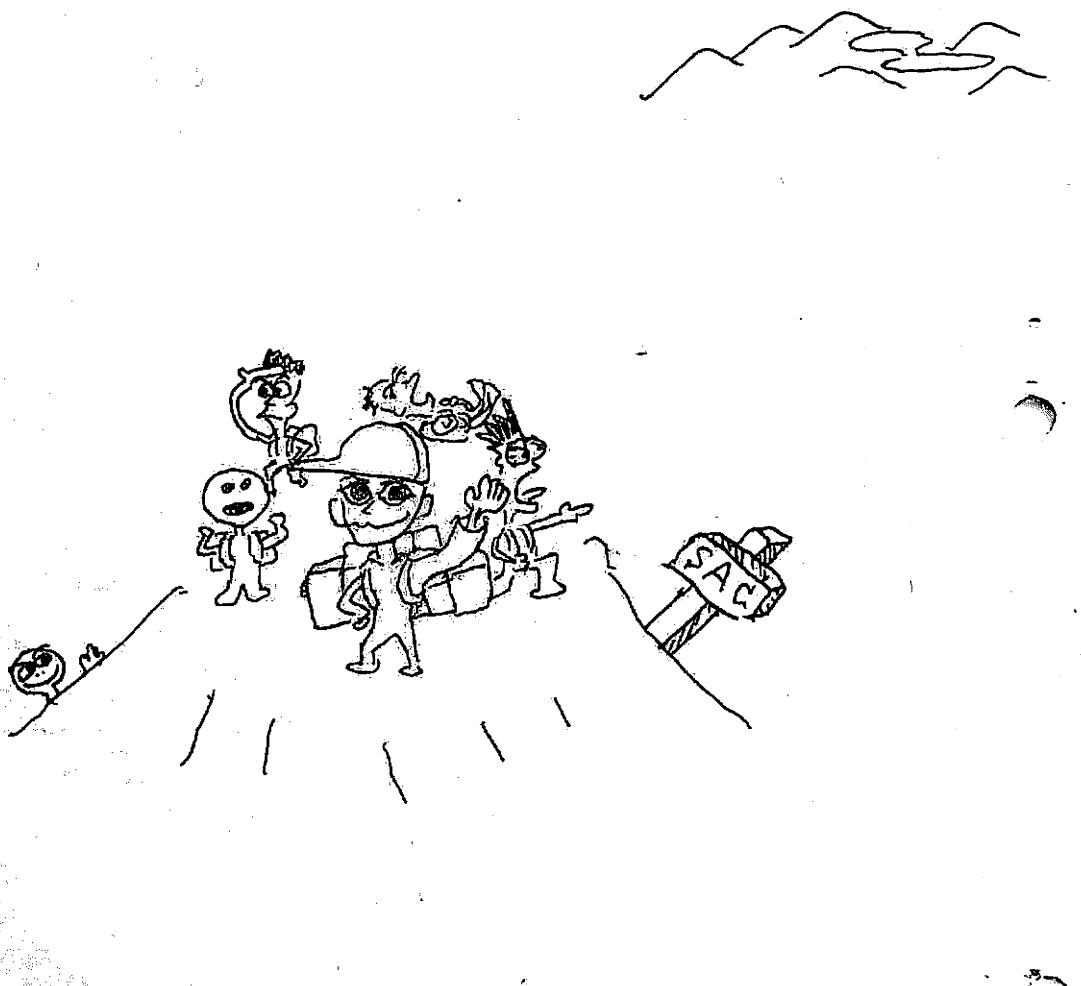
1993.4.16

文責：吉田政隆

93.6.21

M. Yoshida





印刷・発行・松本地區
編集・応谷

1993.6.22